

茅野市 ハケ岳通信

■尖石縄文考古館

「仮面の女神」が県宝に指定されました



平成12年に、湖東中ツ原遺跡で出土した土偶「仮面の女神」が昨年11月の県教育委員会で県宝に指定されました。

この土偶は、完全な形で出土した、全長34cmの大型土偶です。顔に仮面をつけた姿を思わせる形であることから、一般に仮面土偶と呼ばれるタイプの土偶です。今から約4000年前の縄文時代後期前半に作られました。

遺跡のほぼ中央にある、お墓と考えられる穴が密集する場所で、穴の中に横たわるように埋められた状態で出土しました。お墓と一緒に埋葬されたものと考えられます。右足が壊れて胴体から外れていきましたが、これは人為的に取り外したことが明らかになりました。

「仮面の女神」の顔面は逆三角形の仮面がつけられた表

現になっています。細い粘土紐でV字形に描かれているのは、眉毛を表現しているのでしょうか。その下には鼻の穴や口が小さな穴で表現されています。体には渦巻きや同心円、たすきを掛けたような文様が描かれています。足には文様はなく、よく磨かれています。この土偶は、土器と同じように粘土紐を積み上げて作っているため、中が空洞になっています。こうした土偶は中空土偶と呼ばれ、大型の土偶によく見られる形態です。

中ツ原遺跡の「仮面の女神」と似た土偶は、長野県辰野町新町遺跡や山梨県韮崎市後田遺跡で出土しています。どちらも20cmほどの大きさであることを考えると、この土偶がいかに大きいかがわかります。

今年度の遺跡発掘調査から



【芥沢遺跡第31号住居址出土遺物】



【荒玉社周辺遺跡廊下状礎石建物址】



【中原遺跡第4号住居址出土埋甕】

16年度のほ場整備事業に伴う発掘調査は金沢の芥沢遺跡だけでしたが区画整理、店舗、工場のほか建築基準法の改正に伴い一般住宅で基礎工事の際に土壤改良を実施する事態が急増したため、昨年度までは工事立ち合いで対応していましたが本年度は発掘調査による記録保存を執らざるを得ない状況に至った住宅が大幅に増えてきました。

主な発掘調査について紹介します。

昨年度から発掘調査を始めている大沢の芥沢遺跡は、本年度当初に急遽計画変更がなされて発掘予定調査区の大部分が盛土で保存されることになり、対象が道路敷きと削り取られる約2,000m²について発掘調査を行うことになりました。結果、縄文時代早期末前期の住居址16軒、平安時代の同2軒、落し穴4基を含む土坑66基が見つかり、中には地震によって生じたと思われる地割れと重複している住居址や、土坑もあります。2年間の発掘調査最大成果は総面積35,000m²に及ぶ芥沢遺跡北側における居住域の範囲が半円形になっていることが確認できたことです。現在整理作業中ですが調査成果と併せて周辺遺跡との関係を含めて分析することにより芥沢遺跡の性格解明が進むと思います。

播磨小路土地区画整理事業に伴って年度当初から発掘した上原城下町遺跡は区画内道路敷きの約800m²を調査しました。武田時代の上原城下町北西側の一角と江戸時代の信仰遺跡である西方堂址が見つかっています。

宮川安国寺の姫宮区画内に店舗の建築に伴い昨年10月から今年1月にかけて実施した荒玉社周辺遺跡の発掘調査は約800m²を実施し、幅2間（約3.6m）、長さは8間（約14.4m）以上となる廊下状礎石建物址が見つかりました。調査区内からは多量のカワラケが出土しており、一帯が荒玉社の旧社域であった可能性が強まりました。

工場建築に伴い昨年11月から12月にかけて約700m²を発掘した豊平下菅沢の中原遺跡からは縄文時代中期後半の住居址13軒、掘立柱建物址4棟、土坑514基、遺物は土器、石器など整理箱15箱が出土しています。中原遺跡は昭和26年と昭和55年に発掘調査され、7軒の住居址が見つかっており、集落の形は環状であろうと想定されていましたが、今回の発掘調査の成果として環状集落であることが確認されました。

平成16年度収蔵資料展

—河内晋平とハケ岳火山列—

「登った 調べた 40余年」

を開催しました

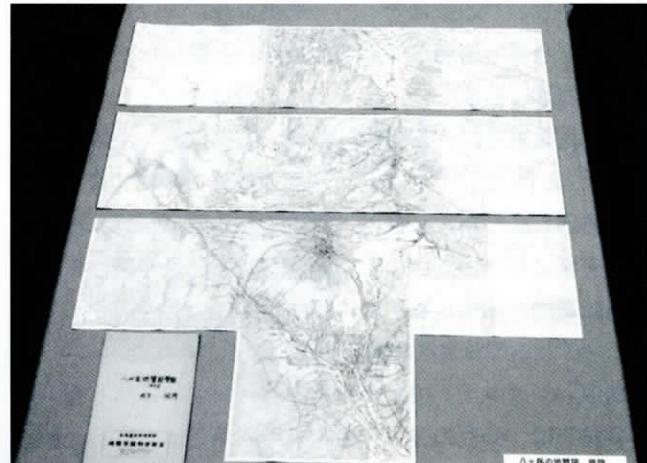
平成15年6月、火山地質学の研究者である故河内晋平氏（元信州大学教授）の岩石資料及び書籍などの膨大な研究資料一式をご遺族から寄贈を受けました。平成16年9月11日（土）～10月17日（日）まで、火山としてのハケ岳の最新の研究成果を、氏の研究の足跡にあわせ、自筆の原稿や図版、収集品など収蔵資料を展示しました。



故河内晋平氏は、1934（S9）.7.25に生まれ、長野県佐久地方の野沢北高校卒業後、松本の信州大学文理学部自然学科に進学します。当時の教官だった小林国夫氏や龜井節夫氏らの指導のもと、ハケ岳の火山地質学的研究に傾注していきます。その後、北海道大学大学院（地質鉱物学専攻）に進学し、さらに、北海道大学理学部の助手・助教授となります。北海道にいながらも時間が許せば、郷里の愛するハケ岳に通い、ハケ岳火山列の形成史の研究を進めたそうです。

1974（S49）から1979（S54）にかけては、地質調査所（現 産業技術総合研究所）発行の地域地質研究報告 5万分の1図幅（地質図）「蓼科山地域の地質」「ハケ岳地域の地質」「小諸地域の地質」にその成果を次々と発表していました。

そのほか、ゼノリス（火成岩中に含まれる別種の岩片のこと。捕獲岩ともいう。）の調査や、韋崎岩屑流の山体崩壊現象も研究テーマに据え、動的な火山の形成史について研究を進めていました。



「蓼科山地域の地質」などの地質図原図

特に1983（S58）に発表した大月川岩屑流の研究では、発表の後も多くの研究者と共同してあたり、遺跡から発掘された洪水砂、埋もれ木の年輪年代学による年代測定、古文書の記載など多方面の分野から総合的に、山体崩壊とそれに伴う災害の起きた年代の特定を行いました。

1990（H2）には、信州大学教育学部教授となり、後進の指導にあたりました。2002（H12）に信州大学を退官した後、大月川岩屑流の現場である小海町松原湖脇の自宅で「自由人」としてハケ岳火山研究に没頭しました。翌年2003（H13）.7にご逝去されまでに、記録されたハケ岳の調査ルートマップの数は3500を越えていました。

会期中には、山梨県立環境科学研究所長の荒牧重雄氏による講演会や岡谷市教育長の北澤和男氏による現地見学会なども開催しました。



移転を間近に控えて開催された、特別企画さよなら展

「茅野市美術館委員展」

今年（平成17年）、現在建設中の茅野市民館内への移転を控えている茅野市美術館では、平成16年7月24日（土）より8月27日（日）まで、「～新美術館に向けて～特別企画さよなら展 茅野市美術館委員展」と題した総括的な回顧展を開催しました。

この企画展では、昭和55年7月の開館以来、当館のためにご尽力いただいた元・現美術館委員34名の作品45点を展示しました。分野は、日本画、洋画、彫刻、工芸、書と多岐にわたっています。各作者から代表作品（物故者の方は寄贈作品等）を中心にお出しいただき、非常に見ごたえのある展覧会を開催することができました。

幅広いジャンル、複数の作家の作品を展示了今回の展覧会場では、個性の違う作品を一点一点じっくりと鑑賞される方も少なくありませんでした。訪れた方に、「感動の表し方の多彩さ」を味わっていただけたのではないかと思います。

「茅野市美術館委員展」は、現在の建物で開催した最後の特別企画展です。これまでの当館の歩みを振り返り、新美術館への橋渡しをする機会にしたい、との趣旨から、会期中、美術館の活動・思い出をまとめた資料や、過去の企画展のポスター等を掲示、配布しました。それらを見て、「懐かしい」と言われる方もいました。この「懐かしい」という感覚は、美術館や博物館にとって大切な要素だと感じます。懐かしさと新しさが同居するような美術館を目指したいと思います。

これまで当館は、市民をはじめ、多くの方の温かいご協力のもと24年間活動を続けてまいりました。新美術館に移転した後も、当館に愛着と親しみを持っていただければ嬉しいです。「親しみやすい郷土美術館」という基本理念を確立しつつ、積極的に新たなアートの魅力も紹介していくたいと考えています。

■守矢史料館

御柱祭と守矢文書

平成16年度は御柱祭の一年でした。それに伴い、当館でも2回にわたって御柱に関する企画展を行いました。

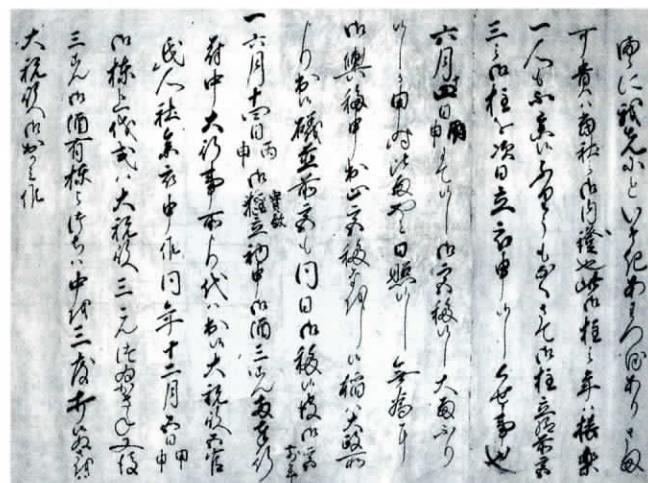
御柱祭期間中に行った企画展は、「写真と古文書による御柱祭」展です。古文書と写真により、御柱の歴史をたどる展示を行いました。

御柱祭の起源についてはわかつていませんが、最初に古文書に見られるのは、鎌倉時代の嘉暦4年（1329）の『大宮造営之目録』です。これには御柱や宝殿造営を行うにあたり、信濃の主要な道に関所を作り関銭を徴収したと記されています。また、その後に御柱を負担する信濃国中の郷村が記されています。古くから、信濃国をあげての重要なお祭りであったことがわかります。

次に御柱のことが書かれている古文書は、延文元年（1356）の『諏方大明神画詞』です。これには桓武天皇の時代（781～806）から始まったと言うことが記されています。

御柱祭の様子を具体的に記録されるようになるのは、室町時代からで、『守矢満実書留』に見ることができます。

御柱立てや宮川越えの様子、大町で喧嘩があったことなど、当時の様子が生々と記されています。寛正5年（1464）には行われなかつたようですが、本来ならば「猿樂」や「ふりう（風流）」といった芸能などが行われ、かなり賑やかだった様子が伺えます。



【守矢満実書留】

茅野市の博物館・文化財課だより ハケ岳通信 No.23 発行年月日 平成17年3月31日

編集・発行 茅野市尖石縄文考古館	〒391-0213	茅野市豊平4734-132	TEL (0266) 76-2270
文化財課	〒391-8501	茅野市塚原2丁目6番1号	TEL (0266) 72-2101
茅野市ハケ岳総合博物館	〒391-0213	茅野市豊平6983番地	TEL (0266) 73-0300
茅野市美術館	〒391-0011	茅野市玉川500番地	TEL (0266) 73-5440
茅野市神長官守矢史料館	〒391-0013	茅野市宮川389番地の1	TEL (0266) 73-7567